

拝啓 今年も早や12月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、落ち葉の紅葉が美しい時期となっています。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第二の手紙講解説教』からの引用の5回目ですが、今回の「エンカウンター」の11ページ、「キリスト我と共にあり」という項目には、次のようにあります。

「神我と共にあり」という信仰。これが、旧約信仰の根本です。諸君には、この「神共にあり」という信仰がありますか。新約になって、「キリスト我と共にあり」という信仰に変わって来ます。「復活の主キリスト、我と共にあり」という信仰が無いとすれば、キリスト教の信仰を論ずるに足りません。永遠の生命、復活の生命というものは、この信仰と密接な関係を持っています。また、我々がこの「キリスト我と共にあり」という信仰を持つことが出来たなら、この世のいかなる富よりも、ベターです。これは、見ることも触ることも出来ないのも、信じるほかありません。この教会では、こういうことを説いています。良いことをせよとか、偉い人になれとか、そういうことは説いていません。それは後からついてくることです。諸君、この信仰を持ちたまえ。」

今も復活されているイエスは、祈りに応じて、人の心の中に入ってきてくださる。だから、我々は力を頂く。永遠の生命も頂ける。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』12月5日

「真理

内村鑑三先生いわく、「吾人は、真理はただ考えただけではわからぬ。実行してみてもわかる」と。それで、ロマ書10章13節の「主の御名を呼び求める者は、すべて救われる」の真理も、ただ考えただけではわからぬ。主の御名を称えてわかる。」

新渡戸稲造先生『一日一言』12月23日

「靈魂の滅不滅は、いくら論じても論じ尽くせぬ。それもそのはず。これは論理の歯牙にもかからぬ問題なればなり。山深く退き、あるいは広き浜辺に立ち、あるいは親の墓に詣でて、人は土塊に過ぎざるやと心静かに自ら問わば、恐らく論理以外の答えあらん。」

松下幸之助先生『続・道をひらく』「激動」

「世界は激変そして激動。だからお互いの周辺も何となくあわただしく移りゆく。ゆれ動くものはゆれ動くし、移りゆくものは移りゆく。その姿をまず素直に観じることである。そして素直にその適応の道を考えることである。」

その中から、変わって変わらざる者を見つめたい。動いて動かぬものを見つめたい。如何にゆれ動いても、天地が逆転しているのではないし、如何に変わっても、人間はやはり人間なのである。激動への対処の道も、基本はやはりここに置いてみたい。むつかしいこ

とかもしれないが、今ほどこれが大事な時はないようにも思えるのである。

内村鑑三先生『一日一生』11月23日

「キリスト教の伝道とは、わが主張を世におよぼし、わが徳をもって人を化し、もってわが党わが弟子を作ることではない。キリスト教の伝道とは、われの罪あるを世に表白し、われの受けし恩恵を人に示し、わが救い主を世に紹介し、もって彼の従者、彼の弟子を作ることである。世にいわゆる伝道なるものと、キリスト教の伝道なるものとの間にかくも相違あることを我らは心に留めておかねばならない。この意味をもってすれば、真正のキリスト信者は誰でも伝道に従事することが出来る。伝道は説教でもなければ、牧会でもない。伝道はわが心に実験せし神の救恤を世に発表することである。」

バークレー先生「ウィリアム・バークレイの一日一章」12月25日

「一つの孤独な生涯

世には知られぬ小さな村に、ユダヤ人を両親として生まれた一人の男がいた。母親は百姓女であった。彼は別の、これまた世に知られぬ小さな村で育っていった。彼は30になるまで大工の小屋で働いていた。それから旅まわりの説教師となって3年を過ごした。…

長い19の世紀が過ぎ去っていった。今日、彼は人類の中心であり、前進する隊列の先頭に立っている。かつて進軍したすべての軍隊、かつて建設されたすべての海軍、かつて開催されたすべての議会、かつて統治したすべての王たち——これらをことごとく合わせて一つにしても、人類の生活に与えた影響力において、あの孤独な生涯にとうてい及びもつかなかった、と言ってもけっして誤りはないだろう。」

カウマン先生『日の出に向かって』11月29日

「神は、あなたを見捨てられません。神はあなたを決して解雇されません。神の評価の中には、「老朽化した」という言葉はないのです。神は、かつての多忙さと同じ仕事を与え、あなたを用いられるのです。たとえあなたが船上から離れて、退却しなければならなくなっても、また外的な活動が鈍くなっても、また床に伏さなければならなくなったとしても……。神はあなたに適切な仕事を与えられます。あなたの静かな晩年に至るまで。」

再び新型コロナの拡大が始まっていますが、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様実行されて、またワクチン注射は打てるときに打つという方針で行かれまして、十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

12月25日

山口周三

エンカウンター読者各位